



古河電氣工業株式会社

2026年3月期第3四半期決算説明会

2026年2月9日

[登壇者]

1名

代表取締役 兼 執行役員常務 財務本部長 青島 弘治（以下、青島）

古河電工グループ 2025年度第3四半期決算

2026年2月9日

古河電気工業株式会社
代表取締役 兼 執行役員常務 財務本部長 青島 弘治

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

青島：財務本部の青島でございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは私より、25年度第3四半期決算および25年度通期予想についてご説明いたします。

Agenda

25年度第3四半期実績および25年度通期予想

- 25年度Q3決算のポイント
- 25年度Q3実績 -要約P/L
 - 売上高・営業利益の増減要因
- 25年度通期予想 -要約P/L
 - セグメント別 営業利益
- セグメント別 売上高・営業利益
- 25年度Q3実績-要約B/S
- 設備投資額・減価償却費・研究開発費
- 26年度に向けて
- 株主還元

補足資料 - Appendix

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

3

3 ページをご覧ください。本日はこちらの Agenda に沿って説明します。

25年度Q3決算のポイント

■ 前年比増収、各段階損益で増益

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY24_Q3 累計 a	FY25_Q3 累計 b	前年比 b-a	
売上高	8,820	9,489	+669	<ul style="list-style-type: none">● インフラセグメント好調
営業利益	314	351	+37	<ul style="list-style-type: none">● 銅価高騰の影響
経常利益	361	408	+46	
親会社株主に帰属する当期純利益	164	355	+191	<ul style="list-style-type: none">● 政策保有株式の売却益
銅建値 平均	1,481	1,559	+78	
為替 平均	153	149	▲4	

5

5 ページをご覧ください。25 年度第 3 四半期決算のポイントです。

前年比増収、各段階損益で増益となりました。インフラセグメントは好調。一部のセグメントで、銅価高騰の影響がありました。

政策保有株式の売却益を計上し、売上高および経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、過去最高値を更新しました。

25年度Q3実績-要約P/L

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY24_Q3累計		FY25_Q3累計		前年比		主な増減内訳 (Q3累計前年比)
	10-12 a'	a	10-12 b'	b	10-12 b'-a'	b-a	
売上高	3,116	8,820	3,382	9,489	+266	+669	7ページ参照
営業利益	139	314	159	351	+21	+37	8ページ参照
(率)	4.4%	3.6%	4.7%	3.7%	+0.3	+0.1	
受取/支払利息	▲ 19	▲ 59	▲ 22	▲ 61	▲ 3	▲ 2	
持分法投資損益	21	82	43	93	+22	+11	
為替損益	22	▲ 4	12	▲ 8	▲ 10	▲ 4	
経常利益	171	361	204	408	+33	+46	
(率)	5.5%	4.1%	6.0%	4.3%	+0.5	+0.2	
特別損益	▲ 46	▲ 77	102	106	+148	+183	・特別利益：+175 (18→193)
法人税等	▲ 65	▲ 96	▲ 74	▲ 137	▲ 10	▲ 41	・特別損失：+8 (▲ 95→▲ 87)
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 9	▲ 25	▲ 6	▲ 21	+3	+4	
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	164	226	355	+174	+191	
(率)	1.7%	1.9%	6.7%	3.7%	+5.0	+1.9	
銅建値 平均	1,449	1,481	1,753	1,559	+304	+78	
為替 平均	152	153	154	149	+2	▲ 4	

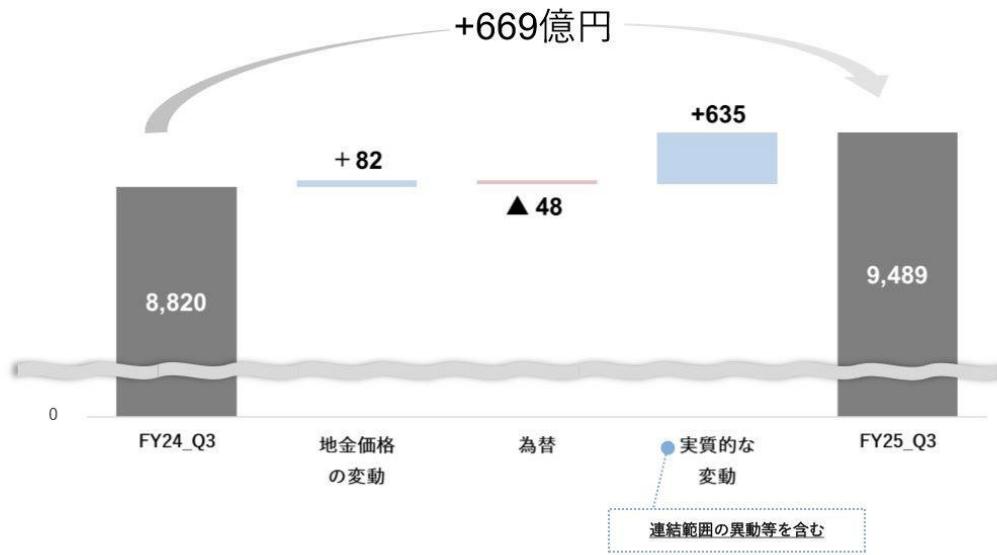
6

6 ページをご覧ください。売上高と営業利益については次ページ以降の増減要因で説明いたしますが、その他の項目について補足します。

持分法投資損益は、前年比でプラス 11 億円です。特別損益は、政策保有株式の売却により、プラス 183 億円改善です。

25年度Q3実績-売上高の増減要因

(単位：億円)



7

7 ページは、売上高増減要因です。

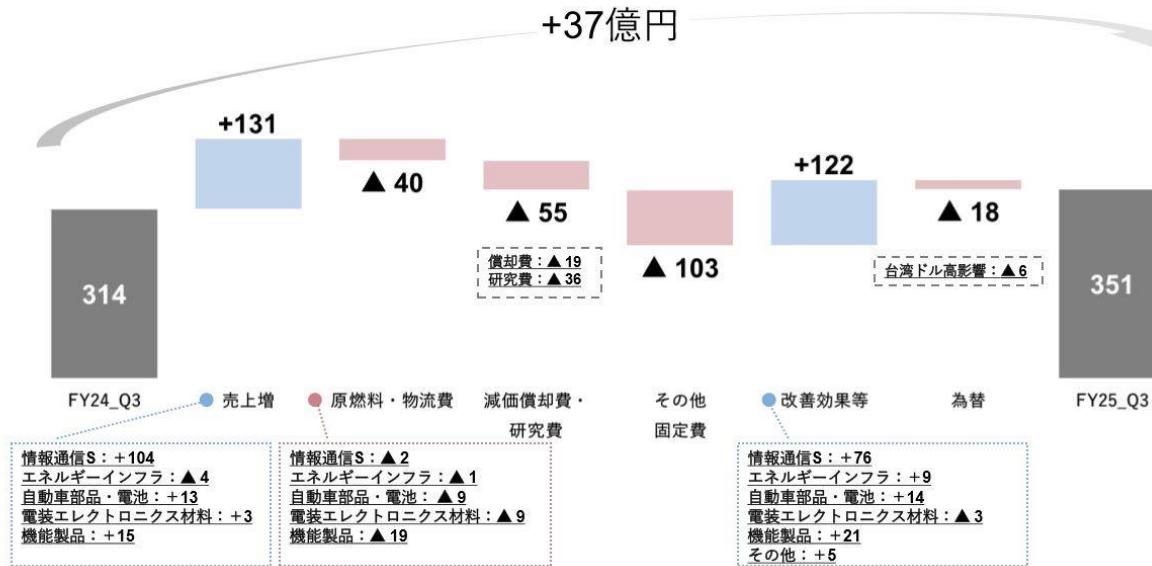
売上高は、前年同期比プラス 669 億円です。地金価格の変動は、銅価高騰によりプラス 82 億円。円高による為替影響は、マイナス 48 億円。連結範囲の異動等を含めた実質的な変動は、プラス 635 億円となります。

実質的な変動の主な内訳は、情報通信ソリューションで約 420 億円増加。自動車部品・電池で約 70 億円増加。電装エレクトロニクス材料で約 80 億円増加。機能製品で約 70 億円増加となりました。

25年度Q3実績-営業利益の増減要因

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

(単位：億円)



8

次、8ページは、営業利益の増減要因です。売上増により、131億円のプラスです。

主な内訳は、情報通信ソリューションで104億円、自動車部品・電池で13億円、機能製品で15億円のプラスとなりました。原燃料・物流費が、銅価高騰の影響もあり40億円の増加。減価償却費・研究費とその他固定費は新規連結の影響もあり増加しましたが、改善効果等で122億円カバーしました。為替影響は、USドルに対し円高、台湾ドル高になったことにより、18億円のマイナス。

全体の増減要因は、プラス37億円となりました。

25年度通期予想-要約P/L

■ 売上高および各段階損益の通期予想を上方修正

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY24 ^{*1} a	FY25 前回予想 ^{*2} b	FY25 予想 c	前年比		前回予想比 c-b
				c-a	c-b	
売上高	12,018	12,000	13,000	+982	+1,000	
営業利益	470	530	560	+90	+30	
(率)	3.9%	4.4%	4.3%	+0.4	▲ 0.1	
受取/支払利息	▲ 80	—	—	—	—	
持分法投資損益	106	—	—	—	—	
為替損益	▲ 22	—	—	—	—	
経常利益	485	520	650	+165	+130	
(率)	4.0%	4.3%	5.0%	+1.0	+0.7	
特別損益	55	60	165	+110	+105	
法人税等	▲ 167	—	—	—	—	
非支配株主に帰属する当期純利益	▲ 39	—	—	—	—	
親会社株主に帰属する当期純利益	334	360	540	+206	+180	● 株価上昇による退職給付制度改定益（特別利益）の増加
(率)	2.8%	3.0%	4.2%	+1.4	+1.2	
銅建値 平均	1,478	1,398	1,694	+216	+296	
為替 平均	153	143	149	▲ 4	+6	

*1企業結合に係る暫定的な会計処理の確定（FY25_Q3）に伴うリストイット（Appendix 1-1. 参照）

*2 2025/5/13公表

- データセンタ関連製品の売上増、自動車部品事業の堅調な推移
- 銅価高騰の影響
(電装エレクトロニクス材料・銅箔)

- 持分法投資利益の増加
- 為替差損益の改善

前回予想時H2前提
銅建値：1,335円/kg
為替：140円/米ドル

Q3実績
銅建値：1,753円/kg
為替：154円/米ドル
Q4前提
銅建値：2,100円/kg
為替：150円/米ドル

9

次、9ページは、25年度通期予想です。売上高および各段階損益の通期予想を上方修正します。

売上高は、主に銅価高騰によりプラス1,000億円、営業利益はプラス30億円、経常利益はプラス130億円、親会社株主に帰属する当期純利益はプラス180億円の上方修正です。営業利益は次ページで説明します。

その他の項目を補足すると、持分法投資利益の増加と為替差損益の改善により、営業外収益が増加し、特別利益は、株価上昇による退職給付制度改定益の増加を見込みました。

なお、為替と銅建値の前提を見直しております。

25年度通期予想-セグメント別 営業利益

主なセグメントの営業利益

セグメント		サブセグメント	H1 実績	H2 予想	FY25 前回予想 ^{*1}	H1 実績 ^{*2}	Q3 実績	Q4 予想	H2 予想	FY25 予想	前回予想比	通期予想主な修正要因
a	b-a											
インフラ	情報通信ソリューション	1	74	75	▲0	27	73	100	100	+25	データセンタ関連製品の売上増(増産投資効果の発現)	
	エネルギーインフラ	26	39	65	26	30	24	54	80	+15	堅調な需要・価格適正化	
電装エレクトロニクス	自動車部品・電池	108	112	220	108	81	71	152	260	+40	価格適正化・固定費抑制等	
	電装エレクトロニクス材料	22	28	50	22	3	15	18	40	▲10	銅価高騰	
機能製品		74	96	170	74	33	43	76	150	▲20	銅価高騰 半導体製造用テープの回復遅れ	
連結合計 (サービス・開発等、消去等を含む)		194	336	530	192	159	209	368	560	+30		

*1 2025/11/10公表（2025/8/7公表値を据え置き）

*2 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定（FY25_Q3）に伴うリストイト（Appendix 1-2.参照）

10

次、10 ページは、セグメント別営業利益の通期予想です。全社で、前回予想からプラス 30 億円の上方修正です。

情報通信ソリューションは、データセンタ関連製品の売上増に伴い、プラス 25 億円。エネルギーインフラは、堅調な需要・価格適正化に伴い、プラス 15 億円。自動車部品・電池は、価格適正化・固定費抑制等に伴い、プラス 40 億円の上方修正。電装エレクトロニクス材料は、銅価高騰に伴い、マイナス 10 億円。機能製品は、銅価高騰や半導体製造用テープの回復遅れに伴い、マイナス 20 億円の下方修正とします。

セグメント別 売上高・営業利益（Q3累計・通期予想）

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

(単位：億円)

	売上高			営業利益			売上高			営業利益			売上高			営業利益				
	FY24_Q3		FY25_Q3	前年比	FY24_Q3		FY25_Q3	前年比	FY24*1		FY25前回予想*2	FY25予想	前年比	前回予想比	FY24*1		FY25前回予想*2	FY25予想	前年比	前回予想比
	a	b	b-a	c	d	d-c	e	f	g	g-f	h	i	j	k	l	m	n	o		
インフラ	2,225	2,621	+396	7	82	+75	3,091	3,750	3,750	+659	—	57	140	180	+123	+40				
情報通信ソリューション	1,196	1,594	+398	▲ 59	27	+85	1,670	2,350	2,350	+680	—	▲ 41	75	100	+141	+25				
エネルギーインフラ	1,029	1,027	▲ 2	66	56	▲ 10	1,421	1,400	1,400	▲ 21	—	98	65	80	▲ 18	+15				
電装エレクトロニクス	5,403	5,598	+195	223	214	▲ 9	7,364	6,650	7,700	+336	+1,050	326	270	300	▲ 26	+30				
自動車部品・電池	2,984	3,055	+71	186	190	+4	4,095	3,700	3,950	▲ 145	+250	276	220	260	▲ 16	+40				
電装エレクトロニクス材料	2,419	2,543	+124	37	25	▲ 12	3,270	2,950	3,750	+480	+800	50	50	40	▲ 10	▲ 10				
機能製品	1,121	1,192	+71	122	106	▲ 16	1,470	1,600	1,550	+80	▲ 50	141	170	150	+9	▲ 20				
サービス・開発等	262	304	+42	▲ 38	▲ 50	▲ 13	348	400	400	+52	—	▲ 54	▲ 50	▲ 70	▲ 16	▲ 20				
連結消去	▲ 191	▲ 226	▲ 35	▲ 1	▲ 1	▲ 0	▲ 256	▲ 400	▲ 400	▲ 144	—	▲ 1	0	0	+1	—				
連結合計	8,820	9,489	+669	314	351	+37	12,018	12,000	13,000	+982	+1,000	470	530	560	+90	+30				

*1 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定（FY25_Q3）に伴うリストイット（Appendix 1-2. 参照）

*2 2025/11/10公表（2025/8/7公表値を据え置き）

11

次、11 ページは説明を割愛します。

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

FY25_Q3累計

(単位：億円)	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
a	b	b-a	
売上高	1,196	1,594	+398
営業利益	▲ 59	27	+85

【増減益要因】

- (+) データセンタ向け製品等の売上増
- (±) 新規連結の影響

FY25_通期予想

(単位：億円)	FY24 ^{*1}	FY25 前回予想 ^{*2}	FY25 予想	前年比	前回 予想比
a	b	c	c-a	c-b	
売上高	1,670	2,350	2,350	+680	—
営業利益	▲ 41	75	100	+141	+25

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>

データセンタ市場向け需要増
(データセンタ事業者・データセンター・通信システムプロバイダ)

注力ポイント

- データセンタ向け製品の開発・増産・拡販

ローラブルリボンケーブル・ソリューション

MTフェルール

DFBレーザチップ^{*3}

12

12 ページです。ここからは、サブセグメントの状況についての説明となります。まずは情報通信ソリューションです。

3Q 実績は、データセンタ向け製品等の売上が増加したことにより、前年同期比で増益。

今後の見通しも、データセンタ関連製品の需要増を見込み、通期の見通しを上方修正します。

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

FY25_Q3累計

(単位：億円)	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
	a	b	b-a
売上高	1,029	1,027	▲ 2
営業利益	66	56	▲ 10

FY25_通期予想

(単位：億円)	FY24	FY25 前回予想*	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,421	1,400	1,400	▲ 21	-
営業利益	98	65	80	▲ 18	+15

【増減益要因】

- ・国内超高压・再エネ関連・機能線（建設・電販市場向け除く）の需要が引き続き堅調

*2025/11/10公表（2025/8/7公表値を据え置き）

事業環境の認識

>>

FY25_H1

FY25_H2

>>

国内超高压

堅調な国内地中線の更新・再エネ関連需要

海底線

機能線/部品

堅調な需要

中国事業

Q4から非連結化予定
(遠隔吉河電機有限公司)

注力ポイント

- ・ケーブル製造および工事施工能力の増強
国内超高压・海底線 再エネ関連
- ・マーケティング活動の推進による拡販
らくらくアルミケーブル® 送配電部品

13

13 ページは、エネルギーインフラです。

3Q 実績は、工事案件ごとに採算性等が違うことから、前年同期比で減益となりましたが、国内超高压、再エネ関連、機能線の需要が堅調なことに加え、価格適正化により、通期の見通しを上方修正します。

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池)

FY25_Q3累計

(単位:億円)	FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
	a	b	b-a
売上高	2,984	3,055	+71
営業利益	186	190	+4

【増減益要因】

- (+) 自動車部品事業は堅調
- (-) 自動車向け電池の売上減少

FY25_通期予想

(単位:億円)	FY24	FY25 前回予想 ^{*1}	FY25 予想	前年比 ^{*2}	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	4,095	3,700	3,950	▲ 145	+250
営業利益	276	220	260	▲ 16	+40

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>



自動車生産台数は前年並み



中国・東南アジア市場での売上減

Q4から非連結化

注力ポイント

- ・米国関税措置への対応
- ・組立の自動化
- ・電動車市場に向けた製品開発

アルミワイハーネス・高電圧対応品

14

^{*1} 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)^{*2} 電池事業非連結化の影響

売上高 : ▲ 約210億円

営業利益 : ▲ 約20億円

14 ページは、自動車部品・電池です。

3Q 実績は、自動車部品事業の売上が堅調に推移し、前年同期比で増益です。

通期の見通しは、円安や労務費高騰に関し、お客様との交渉状況を織り込んだことや、固定費抑制などにより、上方修正します。

2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

FY25_Q3累計

(単位:億円)		
FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
a	b	b-a
売上高	2,419	2,543
営業利益	37	25
		▲ 12

FY25_通期予想

(単位:億円)			FY24	FY25	FY25	前年比	前回
			a	前回予想 ^{*1}	予想	c-a	予想比 ^{*2}
			a	b	c	c-a	c-b
売上高	3,270	2,950	3,750	+480	+800		
営業利益	50	50	40	▲ 10	▲ 10		

【増減益要因】

(-) 為替・銅価による影響

^{*1} 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)

^{*2} 銅価・為替変動の影響を含む

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>

エレクトロニクス関連製品需要は回復傾向

銅価高騰

注力ポイント

- 高付加価値製品の拡販による製品ミックス改善

無酸素銅製品群
(パワー半導体・放熱部品用)

リボン線・角線
(高性能インダクタ・メモリ用)

高機能抵抗材
(スマートフォン・xEV用)

- 販売価格の適正化と低採算品種の撤退

15

15 ページは、電装エレクトロニクス材料です。

3Q 実績は、急激な銅価高騰により、前年同期比で減益となりました。通期の見通しは、足元の銅価格を考慮し、本年度中での銅価高騰の影響の取り戻しは厳しいと見立て、下方修正します。

3 機能製品

FY25_Q3累計

(単位：億円)		
FY24_Q3	FY25_Q3	前年比
a	b	b-a
売上高	1,121	1,192
		+71
営業利益	122	106
		▲ 16

【増減益要因】

- (+) データセンタ関連製品の売上増
- (-) 台湾ドル高・銅価高騰の影響
(銅箔)
- (-) 主要顧客の需要変化
(半導体製造用テープ)

* 2025/11/10公表 (2025/8/7公表値を据え置き)

FY25_通期予想

(単位：億円)			FY24	FY25 前回予想*	FY25 予想	前年比	前回 予想比
a	b	c	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,470	1,600	1,550	+80	▲ 50		
営業利益	141	170	150	+9	▲ 20		

事業環境の認識

>> FY25_H1 FY25_H2 >>

データセンタ関連投資の活況継続

為替（台湾ドル高）・銅価高騰

中国の半導体内製化進行

注力ポイント

- データセンタや再エネ関連市場向け高付加価値製品の増産・拡販

半導体
製造用テープ 高機能
フォーム製品 高機能放熱・
冷却製品 HDD用薄型
アルミブランク材 高周波基板用
銅箔

16

次 16 ページは、機能製品です。

3Q 実績は、データセンタ関連製品の売上増や銅価高騰により、前年同期比で増収でしたが、半導体製造用テープにおいて主要顧客の需要変化があったことや、銅箔において台湾ドル高・米ドル安の影響に加え、急激な銅価高騰によりヘッジ評価損が発生し、減益となりました。

通期見通しも、半導体製造用テープにおいて主要顧客の需要変化が継続することなどにより、下方修正します。

25年度Q3実績-要約B/S

(単位：億円)	FY24末*		増減
	a	b	
流動資産	5,564	5,931	+367
現金及び預金	600	720	+121
受取手形、売掛金及び契約資産	2,606	2,649	+43
棚卸資産計	1,950	2,088	+138
固定資産	4,316	4,349	+33
有形固定資産	2,770	2,619	▲ 151
無形固定資産	240	239	▲ 1
投資その他の資産	1,306	1,490	+184
資産合計	9,881	10,280	+399
流動負債	3,945	4,326	+381
固定負債	2,198	2,013	▲ 185
負債合計	6,143	6,338	+196
株主資本	2,915	3,194	+279
その他の包括利益累計額	499	583	+83
非支配株主持分	323	164	▲ 159
純資産合計	3,738	3,941	+204
負債・純資産合計	9,881	10,280	+399
自己資本比率	34.6%	36.7%	+2.1
NET有利子負債	2,462	2,454	▲8
NET D/Eレシオ	0.72	0.65	▲0.07

資産合計 399億円 増加

古河電池グループ再編	▲ 520億円
現金及び預金	+ 160億円
受取手形、売掛金及び契約資産	+ 200億円
たな卸資産	+ 200億円
投資有価証券	+ 100億円
為替影響	+ 50億円
連結範囲の異動	+ 100億円

*企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (FY25_Q3) に伴うリストイト (Appendix 1-3 参照)

17

17 ページは、バランスシートです。

総資産は1兆280億円で、前年度末より399億円増加です。主に古河電池グループ再編に伴い、約520億円の減少。売上増加に伴い、運転資本等が約560億円増加。株価高騰により、投資有価証券が約100億円増加。為替変動の影響により、約50億円増加。連結範囲の異動に伴い、約100億円増加したことが要因となります。

各経営指標は、いずれも改善しております。

設備投資額・減価償却費・研究開発費

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

■ 通期予想は据え置き

(単位：億円)	FY24_Q3		FY25_Q3		前年比		FY24 ^{*1}		FY25 ^{*1} 前回予想 ^{*2}		FY25 予想		前年比		前回 予想比	
	a	b	b-a	c	d	e	e-c	e-d	f	g	h	i	j	k	l	m
設備投資額	238	358	+120	386	600	600	+214	—	—	—	—	—	—	—	—	—
減価償却費	304	324	+19	414	420	420	+7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
研究開発費	191	226	+36	254	290	290	+36	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(単位：億円)
25中計期間の推移

年	設備投資額	減価償却費	研究開発費
FY22	400	350	250
FY23	380	380	250
FY24	380	400	280
FY25 予想	550	420	300

*1企業結合に係る暫定的な会計処理の確定（FY25_Q3）に伴うリストイット

*2 2025/11/10公表

18

次、18 ページは、設備投資額・減価償却費・研究開発費です。

データセンタ関連製品の需要増に伴い、増産投資を実施していることから、前年比で増加しています。設備投資額・減価償却費・研究開発費の見通しは、11月公表時から変更はございません。

26年度に向けて

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

- データセンタ関連製品の需要は引き続き旺盛
- 需要捕捉のための積極的な増産投資を実施

26年度 主なセグメントの営業利益イメージ

セグメント	サブセグメント	FY24 実績*	FY25予想		FY26 予想	前 提
			H1 実績	H2 予想		
インフラ	情報通信ソリューション	▲ 41	▲ 0	100	100	 データセンタ関連製品等の売上増 (ローラブルリボンケーブル、MTフェルール、DFBレーザチップ等)
	エネルギーインフラ	98	26	54	80	 超高圧地中線・再エネ関連・機能線・送配電部品の需要は堅調
電装エレクトロニクス	自動車部品・電池	276	108	152	260	 電池事業の非連結化(25Q4～)の影響 顧客の自動車生産台数はFY25並み
	電装エレクトロニクス材料	50	22	18	40	 大きな需要環境の変化はない ※銅価変動影響を注視
機能製品		141	74	76	150	 データセンタ関連製品等の売上増 (放熱・冷却製品、高周波基板用銅箔、半導体製造用テープ等)

*企業結合に係る暫定的な会計処理の確定(FY25_Q3)に伴うリストイット(Appendix 1-2. 参照)

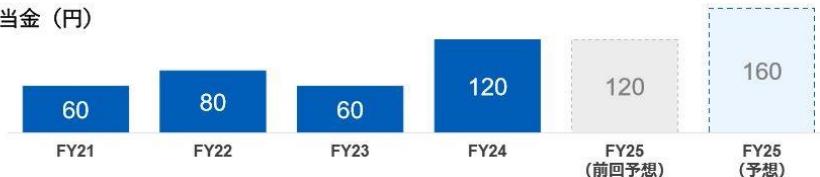
19

19ページは、26年度に向けて、現時点におけるサブセグメントごとの営業利益イメージを矢印で表しております。

データセンタ関連製品の需要は引き続き旺盛で、需要捕捉のための積極的な増産投資を実施しております。

■ 期末配当は、1株当たり160円を予想しております
(2025年5月13日公表の120円から40円増加)

1株当たりの年間配当金（円）



親会社株主に帰属する当期純利益	101億円	159億円	65億円	334億円*	360億円	540億円
配当性向	41.8%	35.4%	64.9%	25.4%*	23.5%	20.9%

株主還元の方針

安定的かつ継続的に株主還元していくことを基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目途として業績に連動した配当を実施

*企業結合に係る暫定的な会計処理の確定（FY25_Q3）に伴うリストサイト（Appendix 1-1. 参照）

20

20 ページは、株主還元です。期末配当について、通期予想の見直しに鑑み、本年度の期末配当予想を、前回公表の1株当たり120円から160円に変更します。

説明は以上となります。